

一度限りの在庫象牙取引とその後の空前の密猟・密輸

□ 日本に象牙輸入

2009年4月17日、日本にワシントン条約に基づく許可を得た象牙が輸入され、外務省、経済産業省、税関、象牙の輸入業者の立会いのもと審査が行われた。乱獲によるゾウの激減のため、象牙の国際的な商業取引は1989年に禁止された。その例外的な取引として、南アフリカ・ボツワナ・ナミビア・ジンバブエから、日本と中国への「一度限りの在庫象牙取引」が認められたのだった。そしてこの4カ国は9年間、象牙取引を提案できなくなった。しかし、新たにタンザニア、ザンビアが自国の象牙を取り引する提案を今回の締約国議に提出している。

取引の経緯について条約事務局は、2009年7月に開かれたワシントン条約の常設委員会に報告した。その公式の報告書では、4カ国あわせて105tあまりの象牙が取引され、その入札価格は約14億8300万円だった。そして中国へ135箱、日本へは64箱が輸出された。

この「一度限りの在庫象牙販売」の許可をめぐっては各国のNGOから、象牙市場が刺激されて密猟や違法取引が増える危険が指摘されていた。そして2008年からゾウの密猟と象牙の密輸のニュースが相次いでいる。

□ アフリカで急増する密猟

2009年2月14日、ケニア南部のアンボセリ地域の象牙の密猟について、同地域で長年アフリカゾウの調査・保護を行っているシンシア・モス博士が報告書を発表した。それによると過去4カ月の間に密猟が増加し、ほとんどの象牙は国境を越えてタンザニアに運ばれているという。

このレポートを受けて、5月3日付Global Post Tristan紙は、「ケニアでゾウの密猟が新たに激増 中国人労働者の流入とアジアでの需要により」と報じている。ケニア野生生物公社によると、2008年に98頭が密猟され、前年の2倍。またアンボセリ国立公園での密猟はここ10年間で初めてだという。

またツアボ国立公園でも6週間に5頭のゾウが密猟され、ツアボ国立公園次長のJonathan Kirui氏の「一度限りの在庫象牙取引以来、密猟が増加した」とのコメントを掲載している。

また2009年5月8日付 Wildlife Extra HPでも「空前の象牙押収 ケニア」と報道している。それによるとケニア北部の東サンブルで行われた密猟一掃作戦で、29の象牙と3丁のライフル銃を押収。NGOスタッフのTitus Letaapo氏は、「昨年12月以来、この地域でのゾウの密猟は増加している」とコメントしている。

カメリーンからは2009年4月26日付ロイター通信で、「週2回発行の地域紙 The Post の報告によると、狩猟監視員がカメリーンのブンバーンゴコ区域で密猟者から差し押された象牙の量は、2008年に60本、2009年では20本にものぼっている」と報じている。中央アフリカの森林に生息するマルミミゾウは牙が緻密で硬いため、象牙が高品質印材として高値で取引される。

□ アジアで大規模な密輸の発覚

3月にフィリピンとベトナムでタンザニア産の象牙の密輸が相次いで発覚した。2009年5月20日付 Africa Science Newsによると、フィリピンで押収された象牙は100万ドル以上(ロイターでは200万ドル)と報道している(約1.8億円)、ベトナムでは約264億円相当と大規模で、タンザニア警察は国立公園内で増加している密猟との関連から、国際的な密輸組織を疑っているという。

フィリピンやベトナムには大規模な象牙市場がないので、中国に向かう船だったのではないかというのが関係者の見方だ。その後もタンザニア、ケニアからアジアへの密輸が次々と発覚している。

□ 國際犯罪組織とゾウの絶滅

密輸象牙のDNA調査から犯罪組織の姿が明らかになってきた。日本を含むアジアの港湾で押収された数千もの密輸象牙

のDNAを、ワシントン大学保全生物学センター Sam Wasser氏らが調査した。その研究で、ほとんどの密猟は少数の大規模組織、つまり一つか二つの犯罪組織が、特定の地域のゾウを密猟していることがわかった。現在の密猟の中心はタンザニアで、最近ザンビアやマラウイの一部も標的にされていることがわかった。

極東の経済成長が象牙の需要を増やし、2004年に1kgあたり約1万8千円だった象牙が、約54万円にも跳ね上がった。2006年には3万8千頭以上のゾウが密猟者に殺され、アフリカゾウの8~10%が毎年密猟されると研究者らは試算している。それは1989年に象牙の国際取引が全面禁止になる以前の水準だという。Wasser氏は、アフリカゾウは2020年に絶滅に直面すると警告している。

□ 一度限りの在庫象牙取引の影響は

環境調査機関(EIA)事務局長のMary Rice氏は、2009年4月15日付Independent紙に『一度限りの』合法的競売は密輸を阻止する手立てにならないと題して以下の文章を発表している。

「象牙の大量押収が増加していることから見ても分かるように、多国にわたる犯罪組織の関与により、象牙取引は高度に組織化された国際犯罪へと発展している。こうした組織は、『一度限り』合法的に売却するということで信用を受けている象牙の、大々的に報じられている需要を利用している。

このような『合法的』象牙が市場に出回ることで需要が満たされ、象牙の価格が下落し、違法取引での収益は下がるものと見込まれていた。興味深い見解である。」

日本では象牙の印鑑が店頭に並んでいても、消費者は合法輸入されたものだと思い、象牙は話題にも上らない。しかし世界では、急増するアフリカでのゾウの密猟とアジアへの密輸、国際的犯罪組織、そして2020年に直面するかもしれないアフリカゾウの絶滅に、警告の声が上がっている。

[JWCS事務局 鈴木希理恵]

●日本語訳と原文のURLは JWCSのブログ ワイルドライフニュース でご覧いただけます。 <http://wildlife.cocolog-nifty.com/>

- ・第58回ワシントン条約(CITES)常設委員会 ワシントン条約事務局プレスリリースより 2009年7月6日 [<密猟>](http://www.jwcs.org/pdf/news/090708ivory.pdf)
- ・「アンボセリ地域のゾウの密猟と象牙取引」 Elephant Trust HP <http://www.elephanttrust.org/node/541>
- ・「森林に生息するゾウ 絶滅の危機」 2009年4月26日 ロイター通信
- ・「合法的な象牙取引に後押しされ、ケニアのツアボ国立公園全域で密猟が急増」 2009年2月25日 The Independent
- ・「密猟者が略奪した象牙200万ポンド分を押収」 2009年4月15日 The Independent
- ・「ケニアでゾウの密猟が新たに激増 中国人労働者の流入とアジアでの需要により」 5月3日 Global Post Tristan <密輸>
- ・「タンザニア警察が象牙密輸調査を開始」 2009年5月20日 Africa Science News
- ・「フィリピン政府当局、タンザニア・ダルエスサラームから密輸された象牙をさらに押収」 2009年5月22日 THISDAY

- ・「ケニア当局、ラオス行き航空機内の植の中に隠された象牙300kgを押収」 2009年7月14日 BBCニュースより抜粋
- ・「ベトナムで200kgの違法の象牙を発見」 2009年7月29日 Agence France Presse (AFP)

- ・「象牙150万円相当を押収 —— インド」 2009年8月3日 Press Trust of India <国際的犯罪組織>
- ・「ゾウのDNA地図 象牙密猟者の足取りを暴く」 2009年6月28日 The Gardian
- ・「ゾウ、2020年には絶滅に直面するおそれ」 2008年9月3日 IPPメディア

これらのニュースの翻訳は、翻訳ボランティアの方々が担当しています。この場を借りて御礼申し上げます。